

(医療入門)

ケアマインド教育〈A3〉

オーガナイザー

教育研究開発センター

保健看護学部

保健看護学部

教養・医学教育大講座 哲学

薬学部

薬学部

薬学部

教授 村田 顕也

教授 山口 雅子

教授 水越 正人

准教授 竹山 重光

教授 安原 智久

教授 須野 学

助教 永田 実沙

I 一般学習目標

医療人を志すものとして知識・技能の習得のみならず、病める人の視点で考えられる人間形成を目指す。

また、行政・司法を含めた社会制度を知ることにより、個々の患者の社会的背景、支援の状況についての理解を深める。本講義は、医学部・保健看護学部・薬学部の共通講義である。多職種連携教育を通して相互理解を深め、患者中心の医療を行うための各自の役割を学ぶ。

II 個別学習目標

1. 医療において病める人の視点で考えることの重要性について述べることができる。
2. チーム医療の状況、重要性について述べるができる。
3. 患者個人として疾患の受け取り方、対応の仕方に多様性があることを説明できる。
4. 疾病の罹患に伴う精神的、経済的、社会的負担を、体験を通して説明できる。
5. 疾患の対応、支援について多くの職種が関わっていることを述べるができる。
6. 患者のみでなく、患者の家族への対応、支援の方法について述べるができる。
7. 疾患について、医学的な支援の状況と限界について述べるができる。
8. 疾患について、行政からの支援の状況について述べるができる。
9. 疾患について、地域社会からの支援について述べるができる。
10. 薬害について理解し、支援について述べるができる。
11. 障害者医療について述べるができる。
12. 神経難病・遺伝性疾患を有する患者の在宅医療の問題点について述べるができる。
13. 地域・僻地医療の現場での取り組みについて説明できる。

III 教育内容

講義項目と担当者

1. 本年度の講師については、患者および患者の会、福祉行政、司法、地域医療の実務者をお願いする予定である。詳しい内容については別途明らかにする。
2. Early Exposure (EE) : 和歌山県下の医療施設で現場の医療を体験し、その内容を報告会で発表する。
期間・予定施設については別途明らかにする。

IV 学習および教育方法

教官による疾患の概略講義後、①患者本人・家族による疾患に関する体験談 ②患者を支援する人々の考えを話していただく。

グループワーク (GW) では医学部・保健看護学部・薬学部学生混合のグループ分けを行い、グループ毎にテーマを設定し 自己学習・発表・討論を行う。最終日には参加者全員の前で発表する。

V 評価の方法

授業への出席および授業態度(20%)、EE感想文・各講義やGWで課されたレポート(70%)、EEやGWでの発表内容(10%)により評価する。EEやGWでの発表内容は、学生も評価に参加する。

評価の基準は大学の基準とする。

講義日程表 ※日程・内容は変更になることがあります。

No.	月日	曜日	時限	項 目	担 当	
1	R3.5.11	(火)	4	オリエンテーション	3学部合同	
2	R3.5.18	(火)	4	視覚障害(講義+GW)	保健看護学部	未定
3	R3.5.25	(火)	4	医療人類学(講義)	保健看護学部	山口
4	R3.6.1	(火)	4	医療人類学(和歌山の人々の暮らし)(講義+GW)	保健看護学部	未定
5	R3.6.8	(火)	4	がん(講義+GW)	保健看護学部	未定
6	R3.6.15	(火)	4	セルフメディケーション(講義)	薬学部	未定
7	R3.6.22	(火)	4	セルフメディケーション(GW)	薬学部	未定
8	R3.6.29	(火)	4	セルフメディケーション(発表)	薬学部	未定
9	R3.7.6	(火)	4	ダウン症	医学部	村田
10	R3.10.5	(火)	4	医療人類学(GW)	保健看護学部	山口
11	R3.10.12	(火)	4	医療人類学(発表)	保健看護学部	山口
12	R3.10.19	(火)	4	薬害B型肝炎	医学部	村田
13	R3.10.26	(火)	4	医学部(GW)	医学部	村田
14	R3.11.2	(火)	4	発表1	医学部	村田
15	R3.11.9	(火)	4	発表2	医学部	村田
16	R3.11.16	(火)	4	薬物乱用(講義)	薬学部	未定
17	R3.11.30	(火)	4	薬物乱用(GW)	薬学部	未定
18	R3.12.7	(火)	4	薬物乱用(発表)	薬学部	未定